

甲斐市教育委員会第11回定例会議事録

- 1 日 時 令和5年2月22日(水)午後1時30分
- 2 場 所 甲斐市役所 新館3階 竜王北部公民館 視聴覚教室
- 3 開 会 午後1時30分
- 4 出席者 **【教育長】**横森貴志教育長
【委 員】金子初男職務代理者 中込正久委員
米山祐希委員 小林啓子委員
【説明員】小澤明教育部長 名取藤吾教育総務課長
坂本公彦学校教育課長 高須秀樹生涯学習文化課長
森川嘉亮スポーツ振興課長 保坂俊和図書館長
山田久美学事係長
- 5 傍聴人 なし
- 6 事務局 久保田浩教育総務係長 早川千賀教育総務係員
- 7 議事録署名委員の指名 A委員 B委員
- 8 前回議事録の承認 令和4年度 第10回定例会議事録 「承認」
- 9 教育長からの報告
- 11 議 題
第1号 令和4年度要保護・準要保護児童生徒の認定について
第2号 甲斐市中学校部活動地域移行協議会設置条例の制定について
第3号 甲斐市スポーツ施設使用料条例の一部改正について
- 12 その他
(1) 学校評価アンケート等結果について
(2) 「甲斐市学外適応指導教室」の運営に関する連携協定(継続)について
(3) 甲斐市立小中学校卒業式のマスク着用等について
(4) 令和4年度末及び令和5年度始め教育委員会関係の予定について
(5) 3月の行事予定について
- 13 閉 会 午後3時20分

○開 会

事務局 開会を宣する。

○あいさつ

教育長 改めましてこんにちは。新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが、5月8日から5類へと移行するに伴いまして、国から2月10日付で、マスク着用の考え方の見直しが決定されるとともに「新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針」の変更について示されました。これを受けまして、今年度の市立小中学校の卒業式では、児童生徒及び教職員について、マスクを外すことを基本といたしまして、来賓及び保護者等はマスクを着用することなど、基本的な考え方について、先日保護者に通知したところです。今年卒業される中学3年生は、入学時からコロナ対策をした上で、マスクを着用しながらの3年間でありました。中学校生活最後の行事である卒業式は、マスクを外しまして笑顔で卒業していただきたいと思います。本年度も残すところ1か月余りとなりましたが、各課におきましても、最後のまとめの時期となっており、来年度に向け、2月定例議会の対応などを行っているところであります。引き続き、ご理解とご協力を賜るようお願いいたします。本日もスムーズな進行にご協力をお願いいたしまして、あいさつとさせていただきます。

○議事録署名委員の指名

教育長 議事録署名委員を指名します。A委員、B委員を指名します。よろしくようお願いいたします。

○前回議事録の承認

教育長 第10回教育委員会定例会議事録に異議のある方はいらっしゃいますか。
一 同 異議なし。

教育長 異議がないようですので、前回議事録は承認されました。会議終了後に、C委員、D委員に署名をいただきます。よろしくお願いいたします。

○教育長報告

教育長

それでは、2月の諸報告をさせていただきます。資料の1ページをお開き願います。主なものについて、ご報告いたします。

8日の午前10時から、甲斐市通学路安全推進会議が行われまして、関係機関の皆さんに出席していただき、本年度の点検結果に基づきます安全対策について協議をいただきました。

翌日の9日午前10時から、双葉ふれあい文化館で、甲斐市立保育園6園の年長児による「うたごえ集会」が3年ぶりに開催されました。子どもたちは大きな声で歌い、指揮もすべて園児が行っていました。また、この「うたごえ集会」の様子は、当日2社のテレビ局で大きく放映されました。

本日、午前10時30分から、甲府地区広域行政事務組合消防本部主催により令和5年春季火災予防運動に伴う「ジュニア防災教室」が竜王小学校において行われました。この運動は、小学校児童と学校職員及び保護者が災害時の自助について学び、周りの人たちと助け合う共助の一員となれることを目的とし、参加した児童は真剣に取り組んでおりました。

26日、日曜日の午前には、第17回 甲斐梅の里クロスカントリー大会の開催が予定されております。

私からは、以上の報告とさせていただきます。

○議 題

第1号 令和4年度要保護・準要保護児童生徒の認定について

教育長

議題の審議に入ります前に、議題第1号「令和4年度要保護・準要保護児童生徒の認定について」は、個人情報に関する事項が含まれます。したがって、甲斐市教育委員会会議規則第15条の規定により、議題第1号を非公開とすることについてお諮りします。

一 同

異議なし。

教育長

ご異議がありませんので議題第1号は非公開といたします。

【ここから非公開】

教育長

非公開とした議題第1号「令和4年度要保護・準要保護児童生徒の認定について」の審議が終わりましたので、これより公開とします。

【ここから公開】

第2号 甲斐市中学校部活動地域移行協議会設置条例の制定について

事務局

(資料説明)

委員

例えば地域の特色で、双葉は合唱があったり敷島には吹奏楽があったりしますが、そういうところは文化協会に参加しているのでしょうか。

事務局

吹奏楽につきましては、文化協会に入っておりますが、合唱については文化協会に入っておりません。公民館の利用者団体が中に入っておりますが、コーラスについては文化協会の中で、ほぼ高齢の方が多いですが、そちらの方のコーラス部というのは存在しています。以上です。

事務局

合唱関係につきましては、学校の代表ということで、小中学校の校長先生の代表が入っていただいておりますので、そちらの方からご意見等もいただけるといように考えております。

委員

そういうのは、やはり地域の特性があって、特色ある学校づくりをしていますので、そういったところの代表やそれに関わる人が、本当は文化協会に入っていれば網羅できると思いますが、入っていないということが考えられたので、そんな人たちを拾う手立てがあると良いと思いました。

事務局

そういったケースにつきましては、こちらの第11号ということで、「前各号に掲げるもののほか、教育委員会の適当と認める者」ということで、拾うことができる形になっておりますので、またその辺は設置する際に柔軟に検討していきたいと考えております。

委員

これは質問ではありませんが、今年退職される人や少し前に退職した人で合唱や吹奏楽が堪能な先生がいたので、そういった人も拾って協力していただければ、地域移行が文化部でもできると思うので、少し考えていただけると有難いです。

教育長

そのような形の中で、今後条例を設置しましたら、運用上でただいまのご意見等も活かしていきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

委員

委員 20 人以内で組織とありますが、(1) から (11) までの人たちの中から 20 人で組織するという事なので、(1) から (11) に当てはまる人、最低 1 人ずつで、どこかが 2 人や 1 人のみという形と考えてよいのでしょうか。それから、(7) の「識見を有する者」のところは、もちろんこれから選考すると思いますが、どういった分野の人の識見を想定されているのか、お伺いしたいです。

事務局

現在のところ、具体的な人数は決まっておりませんが、これから選考する中で、小中学校の校長先生については、小学校・中学校で 1 人ずつが良いでしょうというようなことが今後出てくるわけですが、今はっきりと申し上げることは、なかなか難しいというところになります。

「識見を有する者」についても、やはり同じであります。考えられる内容としますと、例えば大学の先生方や小中学校体育連盟という部活動のまさに中心になっているところがありますので、そういったところから代表となる先生方に来ていただくなどのことを考えておりますが、今具体的に申し上げることは難しいところになります。よろしくお願いたします。

委員

委員の組織を見た時に、各学校で部活に取り組んでいらっしゃる先生方は参加しないのかということをおもいました。先ほどのお話にもありましたように、市立小中学校長の代表ですので、どうしてもその辺りの意見といいますか、考え方を吸収しきれぬのかという懸念があると思おしました。

事務局

教職員につきましても、今のご意見を参考にしながら、入れるところがあれば入れていきたいと思おいます。具体的には (11) の「教育委員会が適当と認める者」として入ることも考えられますが、今後また検討させていただきます。ありがとうございます。

事務局

D 委員のご質問ですが、第 6 条の会議というところで、第 4 項に「委員長は、必要があると認めるときは、委員以外の者の出席を求め、その意見を聴き、又は資料の提出を求めることができる。」という項目も条例にありますので、そういった部分を使いながら、会議に出席いただくようなことも今後考えていきたいと思おいますので、よろしくお願いたします。

教育長

その他ご意見、ご質問はございますか。

無ければ原案のとおり承認してよろしいですか。

一 同 異議なし。

第3号 甲斐市スポーツ施設利用料条例の一部改正について

事務局 (資料説明)

委員 双葉中学校は武道場があるか分かりませんが、敷島中学校の武道場についての扱いはどうなっているのでしょうか。

事務局 現在、中学校にはそれぞれ1つずつ武道場がありまして、玉幡中学校、敷島中学校、双葉中学校はそれぞれ部活動と一般利用ということで解放しております。竜王中学校と竜王北中学校については、今まで解放ということがなかったものですから、今後利用機会の拡充を図るために開放したいという理由で条例改正をさせていただきます。よろしくお願ひします。

教育長 その他ご意見、ご質問はございますか。

無ければ原案のとおり承認してよろしいですか。

一 同 異議なし。

○その他

(1) 学校評価アンケート等結果について

事務局 (資料説明)

委員 全体的に肯定的な意見が多く、緊急に困ったということは感じませんでしたが、質問によっては、例えば「学校は楽しいですか」という質問に対して、数が少なくても「楽しくない」という回答があることが気になりました。それについて、何を改善したらいいのか、本当は理由を聞かないといけないと思います。たくさんの項目について質問をしていますが、項目はもっと少なくても良いかもしれません。楽しくないのはなぜか？ということ拾い上げていかないと、改善していかないような気がします。数は少ないからいいやという問題ではないと思うので、そこがこの質問の大事なところだと思います。

次に、「友達に相談できるか」という項目については、「友達がいない」と書かせることは、酷でかわいそうですよね。設問によっては、個

人で聞いてみても良いかもしれません。記名式のアンケートなのか、無記名なのかは分かりませんが、そういう回答があった時には、やはり学校側にもしっかり伝えていかないと、その意見が埋もれたままになってしまわないかと感じました。

あと、47 ページのオリジナル設問を見ると、他の学校もありますが、例えば、ある小学校の回答者が 1 人で回答率が 100%、残りの 24 人は何も答えていないのは、これは 1 人答えていることがおかしいのではないかと、どのように理解したら良いのかということを感じました。46 ページのある中学校のリサイクルの設問についても、同様の回答が見受けられますよね。1 人だけ答えて、それが 100%になってしまっているという状況は、48 ページも同様ですが、黄色がずっと左へ寄ってしまいます。オリジナル設問というのは何なのか、こういった質問は良いのか、載せる必要があるのか、オリジナル項目は全部白くならなければおかしいのではないかとことを思いました。どういう質問をしたのか分かりませんが、そのようなところは改良の余地があると思います。たくさんあるので、努力は賞賛しますが、救えるところと設問がおかしいのではないかと感じましたので、発言しました。

事務局

ありがとうございます。確かに、回答の中の否定的な意見の原因については、非常に気になる場所ですが、アンケートについては無記名でマークシートとなっておりますので、内容は分からないのが現状です。今後、アンケートの仕方について、肯定的な意見はいいにしろ、否定的な意見については、その内容が何かしらの形で反映できるように検討していきたいと思えます。

また、オリジナル項目の 1 人で 100%というところは、調査した結果をご報告いたしますので、よろしくお願ひします。ただマークシートの場合、上手く四角の中が黒く塗られていないと、機械が読み取れないこともあるようで、そういうところも反映されてしまっている可能性もあります。その辺も調査してみたいと思えますので、またご報告させていただきます。よろしくお願ひします。

委員

結果を見させていただいて、私も「学校は楽しい」とか「友達がいる」とか「学校の授業は楽しい」とか、おおよそどの項目も肯定的な回

答をしていて良いと思いましたが、先ほど先生からもお話しがありましたように、一部の児童生徒の否定的な回答が例年あるわけですね。この辺りをやはり学校側で留意して対応することが必要ではないかと思えます。ただ、無記名といいますと、具体的にどのような子どもさんがそういう思いで居るのが分からないということですね。その辺りがどうかと思うわけです。

それから、18 ページの「スマホ・タブレット・ゲーム機・パソコンを学習以外で1日あたりどのぐらいの時間、使いますか」というところですが、「4時間以上」というのは悪い方ですね。持っていないとなるとまた違うと思いますが、1時間より少ないという方が望ましい傾向で、4時間以上が6点となっているのは、逆ではないかと思ってしまうのですが、いかがでしょうか。

それから、20、21 ページで、「朝ごはんを食べて登校していますか」という設問で、「あまり食べていない」「食べていない」というお子さん、それから「何時ぐらいに寝ますか」という設問で、小学生が午前1時、1時過ぎという回答があって、どういう理由でそのようになっているのかというところを保護者へ投げかけることが必要ではないかと思いました。

そして、オリジナル項目では、「クロームブックを使った授業は好きか？楽しいか？為になっているか？」という設問が小中学校でも入れてあって、現代のGIGA構想によって利活用されている状況を把握するという意味で、こういう設問が入っているのは良いと思いました。

また、不登校支援というところも、現在の課題であるところについて振り返っていただくことは、良いことであると思えます。

事務局

B委員と一緒に、否定的な意見がどういう理由なのかということも必要だと思いますが、このアンケートにつきましては、回答が時代の流れでどのように変わっていったのかということを見るのが主ですので、学校評価の中では、「こういう意見が多かったので、今後、学校ではこのようにやっていく」というような校長先生たちの意見も載せてあります。先程も言いましたとおり、否定的な意見のその理由については、何らかの形で表現できるように今後検討していきたいと思

います。

また、点数が良い方が低くて、悪い方が高いという点につきましては、比較の数字ですので、高い点が良いとか、そういう形ではありませんので、比較するための点数ということで、よろしくお願いします。

あと睡眠時間ですが、これも先ほど言いましたように、各学校の結果については、全て各学校に戻しております。自分たちの学校の子どもが、例えば昨年より寝る時間が少なくなったとか、そういうことがあれば、先生たちが子どもたちに投げかける等、そういうことをしていただいていると思います。結果については、各学校任せになってしまうところもありますが、こういう時代の流れで何が変わっているかということが見られると思いますので、よろしくお願いいたします。

事務局

今と同じ部分になりますが、各学校では、アンケートはマークシートになりますので、具体的に書く部分というのはありませんが、それ以外のところで、毎学期いじめアンケートを記名式で書かせていたり、小学校3年生、4年生以上というところになりますが、Q-Uアンケート、学級満足度等を行って、そこで気になる子どもたちについては、教職員の方から声かけをしたり、それ以上に常日頃、日常的に子どもたちの様子を見ている担任が、この子は学校が楽しそうだとか、この子はあまり面白くないと思っているということを感じる部分もあるかと思しますので、そういった部分で子どもたちには適切な対応するというところで、不登校防止や不登校にさせないために魅力的な学校づくりを行うよう日々活動しております。今回のアンケートにはそういったところの部分はないわけですが、それ以外のところで、具体的に一人一人を救うといえますか、子どもたちの声も聞けるような取り組みを日常的に行っているところでもあります。

委員

B委員がおっしゃったとおり、全体的の傾向としては、肯定的な評価が多いということで良いと思いますが、気になった3点だけお願いしたいと思います。

まず1つ目は読書についてですが、先ほどご説明にもありましたように、17ページの子どもたちの読書の量が減っているというところで、本を全く読まないという数が増えているのが気になるところです。これは

本来、コロナの中で読書のような個人的な活動というのは増えても良いはずですが、やはり 18 ページのスマホ・タブレット・ゲーム機の使用時間と関連しているように思います。ただ、そういった中でも、例えば 43 ページの 14 番の「平日 1 人当たりどのくらいの時間、読書をしていますか」という質問では、D が 1 番多いということや、60 ページの竜王東小学校の「お子さんと本を読んだり、読んだことについて話したりしている」というのは良い質問だと思いますが、これは C が多いということで、県としても、家で読書をするための勧めみたいなことをしていますが、家庭で読書をするという取り組みについて、もう少し啓蒙していく必要があるのではないかと思います。

2 点目は、最近出てきました情報機器の取り扱いについてですが、これについては、例えば 61 ページにある SNS の利用によるネットトラブルについての質問では、D 判定のところ丸を付けているのが 1 番多いということですが、いじめや不登校につながるような点もありますので、こういった SNS のネットトラブルというか、子どもたちへの情報リテラシーの教育、指導がすごく大事であると思いました。

最後に 63 ページ一番下の 7 の読書のところについて、令和 6 年度の目標値が 50%、40%とありますが、令和 2 年度の時点で 59%、48%ですので、そういった傾向からすると、本来目標値がもう少し上がっていても良いのではないかと思います。以上です。

事務局

読書が少ないということやネットトラブル等、このアンケートの結果で、いろいろと懸念することが出てくるわけですが、その中で、今日委員さんたちがおっしゃられた内容についてはピックアップして、校長会でもお話しできるようにしていきたいと思います。

事務局

読書につきましては、非常に心配しているところではありますが、委員さんがおっしゃったとおり、大きく数字が下がってきているというのは、実は学校で今も朝の読書をほぼ 5 日間、学校によっては週に 3 日間のところもありますが、朝の大切な時間の 10 分間を使って、朝の読書をしていて、学校では読書を進めるということでその時間を大切にしながら、家に帰っても読めるようにということで取り組みをもう何十年も行って、これは甲斐市だけではなく、山梨県中で行っている取り組みで、

全国的にも先進的な例としてよく紹介される部分であります。ところが、ここ数年の中で急激に下がっているというのは、家での過ごし方に関わるものが大きいかと思っておりますので、いただいたご意見を16校会を通して、読書の推進と申しますか、スマホではなくて、読書の時間を少し取れるような取り組みについて、また検討して参りたいと考えております。

続きまして、情報リテラシーの回答ですが、私はその学校に居たことがあったので、この質問については、困っていることがあるというのがAで、次第にBCDとなって、他の中学校のネットトラブルも同様だと思っておりますが、左側が「ある」という回答になります。もちろんまるっきりないわけではないので、この2校の質問については、そういった答えの傾向にあるという捉え方もあるかと思っております。

最後になりますが、創甲斐教育の目標については、策定当時の数値をもとに目標値を設定しておりますので、令和6年の目標はそうになっておりますが、もちろん前年度以上のものを毎年、その数値をさらに大きく上回るように取り組みを進めておりますので、ご理解いただければと思います。ありがとうございます。

委員

読書の量が減って、スマホの使用時間が増えてきているというのは、時代の流れなのでしょうが、私たちが現職の頃は、例えば、本が分厚い魔法使いの物語が流行りました。それは、世の中的にも映画になったりして、読み始めると楽しいという本の楽しさがあったので、この本ほどの学校にもありましたよね。今はそういった本はあるのでしょうか。読書というのは、その子のツボにはまれば作者を追いかけていくことができると思いますが、そういう入口がなかなか難しいですよ。甲斐市で行っているブックスタート事業は本当に良いと思いますが、それが続いているし、学校の先生や司書の先生たちも一生懸命やってくれていると思いますが、ツボにハマる本というのはその子によって違いますよね。一方、スマホやパソコンのインターネットで見た方が、やはり手っ取り早いです。寒い日は、ほとんど毎日タブレットで、農業の勉強やウクライナの情勢などを見ていますが、本よりもインターネットの方が詳しくて良く分かります。そこに勝るような本の楽しさを教えたいと思いますが、今はそういった本はあるのでしょうか。私が昔とてもハマったのは、

フランス革命の頃のイギリスの反戦物語でしたが、どんどん本を集めて
いって、とても面白かったです。私はたくさん本を持っていますが、子
どもは読まないですね。前に図書館に寄付をすると言いましたが、よ
く考えたら戦争ものを図書館に寄付して良いものなのかなと思って、止め
てしまいました。何か子どもたちの心にハマる本、本当は今流行ってい
るものがあると良いですが、それを見つけてあげること、学校の先生方
も司書の先生方も結構一生懸命やってくれていますが、その子その子
にハマる本を見つけるような活動も必要ではないかと思いました。大人で
もタブレットの方が早くて動画なので聞くだけで良いし楽ですね。学
校でも読書量を増やすということで朝の 10 分で取り組んでいます。子
どもたちがハマるいろいろな本をやはり図書館でも出してほしいと思
います。どの子がどの本にハマるかということは誰にも分かりません。小
さい頃はお母さんやお父さんが絵本を読んでくれて、同じ本でも何回も
見ますよね。例えば、乗り物が好きな子は、消防車や救急車が通れば外
に出ていくこともあります。そういうハマりを見つけるという活動も必
要ではないかと思います。そうしないとパソコンやスマホには勝てませ
ん。楽なので自然な流れかもしれませんし、意識して見ていけば YouTube
等も役に立ちますよね。パソコンやスマホに流れる動画は役に立つもの、
例えば有名中学の入試問題なども面白いと思いますので、そんな紹介も
していただけるといいのではないかと思いました。道徳教育でいう愛
国心、日本は良かった、日本人のこういうところが良かったという話もた
くさんありますよね。トルコの救済に日本がすぐ行ったことなど、そう
いう歴史の問題もあって、トルコの軍艦が紀州沖で沈没した時に日本人
が助けて、その医療費について村長さんが「助けることは当たり前だか
らいらぬ」と断ったことで、日本とトルコは繋がっていますよね。そ
ういうことも知ることができるので、あながち情報端末を見るのが悪い
ことではないと思いますが、それに勝てるようなことをするには、今か
ら結構力を入れていかないと難しいような気がします。それと同時に良
い情報を紹介するようなことも学校でもやっていただきたいと思
います。刷り込みも困りますが、自分で選んで見られるようになってくると良
いと思います。

事務局

ありがとうございます。今この話題には出ていませんが、やはり本を読まなくなったのは、街の本屋さんが無くなったということが原因の1つにあると思います。我々が子どもの頃は、本屋さんに行って立ち読みをするということが当たり前でして、そういうところから自分の好きな本を選ぶことができましたが、今の子どもたちは、そういう経験をしたことがない、本を買うのはアマゾンで注文すれば、すぐに買うことができるというところも1つの原因になっているのではないかと思います。自分の家に本がない、本を買う行為自体が身近でなくなってきたことが本を読まなくなった原因の1つではないかと思うところでもあります。そういう意味で、学校図書館で本を探すことの重要性が増しているのではないかと思いますので、その辺をまた学校の司書の先生とも話しをしながら、できるだけ子どもたちに本と接していただけるような取り組みをやっていきたいと思しますので、よろしくお願いいたします。

委員

本の話ばかりで申し訳ありませんが、私も思ったところがありまして、やはり子どもが本を読まないというのは、親も本を読まなくなっているということがあると思っています。私は、これ見よがしに子どもの前で本を読んで、「今月は何冊読んだ」と自慢をしたりしますが、そういうことができるとやはり子どもも自然と「本って面白いんだ」と感じて、図書館で何冊も借りてきたりします。学校訪問で図書館を見させていただいた時に、すごく良い本を揃えていると感じましたので、例えばお子さんに、「お母さんやお父さんに本を1冊借りてあげよう」といったことをしていただくとか、蔵書の紹介してもらおうとか、おすすめの本など、たまに図書便りで目にしますが、そういうものを頻繁に出していただくとか、家庭でお父さんお母さんも一緒に本を読む楽しさを知ってもらうというようなことも、取り組みとしてやっていただけると良いと思いました。

あと別のところで、事務局から説明があった25ページのところで「先生がよく勉強を教えてくれる」というのも、保護者と先生たちの間でギャップがありそうだと思います。やはりコロナ禍で、保護者が学校を見に行くという機会が減っていて、行事とかは結構動画で配信してくれたり、運動会を見に行くことができたりして様子が分かりますが、勉強を学校でどのように教えてくれているのかということは、やはり見えにくいところがあ

るので、どうしても「思わない」とか「分からない」と答えざるを得ないという事情もあるのかと思いました。特に、「授業が分かる、分からない」というところと、「勉強をよく教えてくれる」という違いが、私はいつもこのアンケートの設問を見て分からないとっていて、先生は勉強を教えてくれるのが当たり前ですが、「よく勉強教えてくれる」というのはどういうことなのか疑問に思います。例えば小学校で、放課後に残って先生が勉強を教えてくれるという機会はほぼないですし、でも中学校であれば、もし子どもが質問したら教えてくれるのだと思いますが、そういう話しは聞かないということで、結局「よく教えてくれる」というのは、どういうことなのか分からず、「あまり思わない」とか「分からない」と答える方も多いのではないかと思います。学校の先生があまり勉強教えてくれないと思ったり、学校の授業が分からないということが、塾に通わせることにつながったりして、塾に通わせると帰宅時間が遅くなって寝る時間も遅くなる、スマホがなければ連絡が取れないので利用時間も増えるという感じで、結構繋がっていくのではないかとと思っています。なので、やはり基本、学校で先生がしっかり勉強教えてくれる、学校の成績が学校の勉強だけで、ちゃんと自分なりに良い成績が保てるという状態が理想かと思っていますので、ぜひ、先生方の教える力を伸ばすところに力を入れてほしいなと思いました。

あと、教職員のアンケートの自己評価で「分からない」という選択肢があって、学習指導について、その他の支援員さんたちが「分からない」と答えるのは納得できる設問もありますが、例えば 33 ページの「指導と評価の一体化に努めた授業を行っている」という設問で、「分からない」と回答している教諭の方が 24 人、管理職で 8 人もいることに不安を感じました。分からないというのとはどういうことなのでしょう。分からないという設問があってもいいのだろうかと思いました。不安に思います。

もう一つ、64 ページの最後の「校務支援システムを十分に活用できていますか」という設問ですが、目標値を大幅に下回っている項目で、どうしてだろうとすごく疑問に思いました。校務支援システムは一体どういうものなのか、なぜこんなに「とてもそう思う」と答えられない方が多いのかという点を疑問に思います。以上です。

事務局

ご質問の部分の二点で回答できる部分について、答えさせてもらいます。教職員の中で、管理職も含め「分からない」と答えているところですが、質問の捉え方といいますか、例えば、管理職は自分が授業をしているわけではないので、「授業をしている」という質問に対して、「分からない」と答えるというところですが、これは以前も1度、やはりその話がありまして、「管理職としてそういう授業を喚起するような指導を行っていますか」と読み替えて、答えてくださいという指導をしていましたが、今年はその部分が抜けていたかと思います。また、「あなたは学級経営をしていますか」という質問に対しては、担任しか答えられませんが、学年主任等は「学級経営ができるように職員に指導をしていますか」と読み替えてくださいということでお伝えをしていた部分がありましたが、こちらについても今年には十分に周知されていなかったかと思いますので、反省点として、来年度以降はその部分をきっちりに対応させていただきたいと思います。

校務支援システムの件ですが、「とてもそう思う」と自信を持って答えるというのは、なかなか難しいと言いますか、「あなたはちゃんと使っていますか」という設問に対して、「使っています」という答えは非常に多く、この部分を加えると90%以上になります。「とてもそう思う」となると、エキスパート的な意識を持たされるという部分があって、「あなたが十分に理解して使っていますか」と言われたら、「はい、使っています」と答える職員は多いですが、「とてもそう思う」と答えるのには少しハードルが高かったのではないかと考えております。校務支援システムを使い始めて3年になりますので、導入当時に比べますと、教職員も校務支援システムを有益に利用して仕事をまわしております。県内で1つのシステムになりますので、やや扱いづらい部分もありますが、現在のところ、「とてもそう思う」という人数は、目標値と比べると低くなっていますが、「そう思う」まで入ると、かなり近い数字になっております。よろしく願いいたします。

委員

先ほどから多くの話しが出ていた読書の件ですが、今の時代の子どもの現状を考えると、なかなか家で読書にたくさんの時間を割くことは大変だと思います。数値を上げることが、なかなか難しい状況である中で、「これは項目としてどうでしょうか」と数年前に言った覚えがありますが、そういう中でも読書をしていくというのは非常に役に立つことでやはり必

要なことです。それを毎年毎年、目標値に向けて取り組みを進めているというところで、そういう意味で大事な目標値を掲げて、それをなるべく達成できるような働きかけを学校でも家庭や子どもたちに呼びかけたりしていくことが大事だと思います。それで現状、令和2年から6年度の目標値をすでに少し上回っているところを評価して、よりこの辺りが継続できるように、向上できるように、そういう取り組みを学校でも子どもや保護者への働きかけをしていくことが必要だと思います。以上です。

委員

読書の件ですが、C委員が言うように、例えばPTAが来るときがありますよね。そういう時にお母さんと子どもが図書館に寄って1冊借りていくという取り組みであれば、お金もかかりませんし、すぐに出来ることだと思います。そういうことを各学校に言ってみてはどうでしょうか。そういう運動もあると具体的に言っていないと分からないと思います。本を読め、本を読めと言っても難しいですよ。1冊でも2冊でも良いので、その学年に応じた本を親子で借りていくことも良いのではないのでしょうか。親が読みたい本もあると思います。先ほど話しが出た魔法使いの本がありますよね。これは今読んでも私は面白いと思います。読書量を増やすのであれば、具体的な取り組みとして、お父さんやお母さんを連れ込むということを考えても良いのではないのでしょうか。

あと1つ、「指導と評価」というのは、先生たちは知っているのでしょうか。私たちがもらう全国連絡協議会の本を梶田叡一という人が1つ書いていますよね。その人が事中評価と言い出して、私も一生懸命研究しました。授業をして、すぐに自分で評価、あるいは子どもに評価をさせて、また授業を進めていくということが、指導と表裏一体ということで、今の若い先生は知らなくて、答えが出てこないのかもしれないと思いました。当然のこととしてやっているのか、全然知らないのか分かりませんが、梶田叡一もかなり高齢だと思いますので、若い先生は知っているのか、やはり皆が分かるように項目の見直しも必要ではないのでしょうか。以上です。

委員

例えば、学校評価アンケートで自己評価をする時に、「とてもそう思う」ではなくて「そう思う」にしておこうと謙遜してしまう部分があると思います。「そう思う」でも、よろしいのではないのでしょうか。

指導と評価の一体化につきましては、授業を1時間して、目標があって、

目当てがあって、それがどうであったかということ子どもたちも教師も振り返ることは当然必要で、それはやっていると思います。学校訪問で授業を見ても、最近は目当てを明確にして取り組んでいると思いました。ただ目当てを明確にしても後の評価の部分を1時間の中できちんとやっていくという積み重ねだと思いますが、自分で考えても多少謙遜してしまう心情があるのではないかと思います。

事務局

様々なご意見、ご提案いただきましてありがとうございます。第2次創甲斐教育につきましては、令和6年度が最終目標年度となっております、5年度から第3次ということで創甲斐教育の見直しの準備を進めてまいりたいと考えております。またその中で適切な評価につながるような指標の設定をしてみたいと思います。また教育委員さんのご意見もいただくことになるかと思いますので、よろしくお願いいたします。

教育長

その他ご意見、ご質問はありますか。よろしいですか。

一同

異議なし。

(2)「甲斐市学外適応指導教室」の運営に関する連携協定(継続)について

事務局

(資料説明)

委員

立場が重なっているので大変申し訳ないですが、感じたことを何点かお話しさせていただきます。

今、ご説明がありましたように、1学期の希望者はいませんでした。現状オークルームは、3月末でいったん切りしております。それは自動的に継続延長ではなくて、4月に担任が変わったり、進学進級によって環境が変わったりすることで、登校できる子どもたちもいますので、そういった子どもたちの様子を見る期間としております。ですから、4月に16校をまわって、ご案内ご説明をさせてもらっていますが、そういった中で、1学期は希望者なしという状況ではありましたが、今年度は甲斐ゼミ教室で、夏休み期間の7日間を開設していただきました。たまたま中学3年生の男の子が、そのうちの5回参加しました。また、もう一人、小学6年生の子も希望していました。その子は、都合により出席することはできませんでしたが、そういった子どもたちの後の様子を聞きますと、特に中学3年生については、受験勉強ができて、夏休み期間が有意義であったという感想

も聞いています。現在、4人の子どもたちが通級しており、3人はほぼ毎週通級している状況です。

検証結果の開設場所と開設日時については、甲斐ゼミの敷島教室で良いのではないかと思います。1つは、どうしても竜王教室の方は、中部セミナーハウスということで休館日ですので、月曜日で竜王教室というのは、大変効果的でありますし、ありがたいと思います。上に複数の問い合わせとありますが、実際には敷島の保護者からの要望を伺っています。地域的にも敷島教室で良いのではないかと思います。曜日的にも、月曜日は振替休日になる可能性があるので、敷島教室については少しでも日程的な確保をするという意味で、曜日を変えた方が良いのではないかと思いますし、たまたまかかもしれませんが、水曜日の利用者は、週の中では比較的多い傾向もあります。

最後に、協定書についてですが、第2条の(3)に「オークルームとの連携」とありますので、その文言で大丈夫かと思いますが、非常にありがたいのは、やはり甲斐ゼミ教室でオークルームの通級者を対象とした時間帯を作っているということです。大きな集団の中には入れないけれども、少集団の中には入れるという子どもたちが多いです。そういった意味で、甲斐ゼミ教室でオークルームの通級者だけを対象にした時間帯を作っているというのは、大変ありがたいと思いますので、そういった意味での運用的な面で確認をしていただくとありがたいと思います。以上です。

事務局

ありがとうございます。今後、甲斐ゼミナールとの最終的な打ち合わせを行ってまいりますので、今いただいたご意見を活かしながら、検討させていただきたいと思います。6,000人いるうちの数人ということで、子どもたちの人数は決して多くはありませんが、数人の居場所を作ってあげられているということも大切な部分であると考えておりますので、またご意見をいただきながら、この事業を進めさせていただきたいと思います。ありがとうございました。

委員

子どもたちの学びの場所が1か所増えるということで、大変良いことだと思います。質問ですが、敷島にも竜王のような甲斐ゼミナールの塾があるのでしょうか。

事務局 敷島小学校の前のあたり、すき家さんがあって松島郵便局の道挟んだ反対側にあります。

委員 双葉には需要がない、あるいは甲斐ゼミナールがないのでしょうか。希望があるかどうか分かりませんが、例えば、市民バスのようなものに乗らせてあげるといふ配慮は必要ではないかと思ひます。敷島の子が竜王教室に通つても良いし、竜王の子が敷島教室に通つても良いですよ。中学生であれば、自分で自転車に乗って行くことができるかもしれませんが、小学生も入つてゐるので、その辺はどうかと思ひて質問します。

事務局 はい、ありがとうございます。今回の敷島教室につきましては、今竜王教室がござひます。オークルームにつきましては、双葉の教室の方がござひまして、敷島地区につきましては、前にもこちらの会議の中でも話題になつたかと思ひますが、オークルームが現在ない状況です。そういった中で、この学外適応指導教室については、今オークルームのない敷島に作つたらどうかといふことで、今回は敷島教室を設置させていただくといふ考へでござひます。

委員 甲斐ゼミ教室等に通うと、子どもたちの生活範囲の中の社会化が広がるので、とても良いことだと思ひます。希望があれば、なるべく行かせてあげたいと思ひました。

委員 事務局 からもお話しがあつたとおり、通う子が少ないとか、そういう人数の問題ではなくて、どんなに少ないお子さんでも通える場所があるといふのはとても大事なことなので、利用する子の人数に関わらず、こゝう場所を設けていただくのは、すごく良いことだと思ひます。それを前提でお伺ひしたいのですが、この間たまたまテレビで、岐阜の公立の不登校特例校がすごく話題になつてゐるといふことを耳にしまして、その時に2017年に政府の方で不登校の特例校のよゝな学校を各都道府県に設置義務といふ形で出しているといふ話を初めて聞きました。まだあまり進まないといふことで、20校ぐらいしか今のところないといふことですが、甲斐市ではそういった特例校の検討をされたことがあつたり、もしくは今後検討する予定はあるのかといふことをお伺ひしたいです。

あと今このオークルームと甲斐ゼミ教室に通う対象になつてゐるお子さんは、各地区にどのくらいいらつしやるのでしょうか。やはり実態を知つ

ておきたいと思いましたが、もし分かれば、教えていただきたいです。

事務局

今ご指摘がありましたとおり、特例校については急拡大しているというわけではありませんが、文科省は進めていく方向でいます。なかなか各地区で、例えば甲斐市単独で特例校を作るとなると、かなり大きな対応になるというところで、甲斐市ではそれに代わるものとして、今オークルームという形で運営をしたり、違う形で甲斐ゼミナールとの連携等を行っているところでもあります。具体的な検討にはまだ至っていないというのが現状です。様々な研修や学習で指導主事等がそういったところへ調査に行くことはありますが、まだまだ県内でも具体的に言うと特例校について検討しているというようなところはあります。

もう一つですが、対象となるというのは、不登校の子どもたちということによろしいでしょうか。今、手元に資料がありませんが、人数的には甲斐市内全体、小中学生で160人です。ただオークルームの対象は、現在は5年生まで、場合によっては4年生も体験入学という形で入っていたりしますが、小学校1年生2年生3年生の数を引いた残りが160人となります。低学年のうち、それほど不登校の人数が多いわけではありませんで、正確な数字は、またお伝えさせていただきたいと思いますが、甲斐市全体では、160人程度の不登校者数となっております。

委員

160人というのは、結構多い人数であると思いますので、より多くのお子さんがオークルームや甲斐ゼミ教室を利用できるように、引き続き取り組みをお願いいたします。

あと夏休みの利用についてですが、夏休みは不登校ではないお子さんでも学校には行かないので、長期休みの間にも甲斐ゼミ教室を利用すると、夏期講習を受けているように誤解されてしまったら可哀そうだと思います。その辺をなるべく気をつけて、配慮することが必要ではないかと心配になりました。

不登校特例校は今のところ動きはないということですが、やはり普通の学校で、どのようにお子さんに配慮すると不登校が減らせるのかというところを特例校の取り組みから学べることもあると思うので、また今後勉強していきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

事務局

ありがとうございます。夏休みの対応ですが、今年度につきましては、

曜日を先に甲斐ゼミナールと協議をしまして、そのうち申し込みがあった日だけ来ていただくという形で対応しておりますので、来年度以降もそのような形をとっていきたいと考えております。

委員 結果的には中学3年生でしたが、どうしても長期休業の後、2学期以降に休んでしまう子が多い現状にあります。ですから、本来的にはやはり長期休業に少しでも甲斐ゼミナールを利用して、外に出るという意味合いで取っていただいた方がいいのではないかと思います。

教育長 その他ご意見、ご質問はありますか。よろしいですか。

一同 異議なし。

(3) 甲斐市立小中学校卒業式のマスク着用等について

事務局 (資料説明)

事務局 (口頭説明)

教育長 ご意見・ご質問はございますか。よろしいですか。

一同 異議なし。

(4) 令和4年度末及び令和5年度始め教育委員会関係の予定について

事務局 (資料説明)

教育長 ご意見・ご質問はございますか。よろしいですか。

一同 異議なし。

(5) 3月の行事予定について

事務局 (資料説明)

教育長 ご意見・ご質問はございますか。よろしいですか。

一同 異議なし。

○閉会

事務局 本日、本定例会に付議された議案の審議を全て終了したので本定例会の閉会を宣する。

閉会時間 午後3時20分